

学 校 名	山形市立西山形小学校 山形市大字柏倉 888 番地 TEL 643 - 3011 FAX 645 - 8602	校 長	奥山 博史
		研究主任	丹 野 隆
研 究 主 題	とともに学び合い、 たくましく生きる子どもの育成をめざして(4年次) - 生活科・総合的な学習の実践を通して -		
主 題 設 定 の 理 由	本校の研究主題「とともに学び合い、たくましく生きる子どもの育成をめざして」を掲げ、今年で4年目となる。地域の歴史や文化，学校周辺の豊かな自然などを生かしながら、一人一人が自分の課題をはっきり持ち、互いに教え合い、学び合いながら積極的に課題を追求していくような主体的な子どもの育成をめざして平成12年度より研究に取り組んできた。 昨年度までの研究を通し、 (1)身近かで具体的な課題を設定することにより、子ども達の興味や関心を強く引きつけ、積極的に活動しようとする意欲が高まる。 (2)プロジェクト学習の発想を取り入れ、あらかじめゴールを想定しておくことにより、興味や関心を持続しながら見通しを持って活動に取り組むようになる。 (3)小グループでの活動を積極的に取り入れることにより、グループ内での情報交換がさかんになり、互いに協力し合って課題を解決していこうとする態度が養われる。 など、さまざまなことがわかってきた。研究が進むにつれて、意欲的に活動する子どもも多く見られるようになってきた。 しかし、進んで課題を見つけて追究したり、時と場に応じた言葉で表現したり、自己を高めながらさらに新しい課題に挑戦したりする力がまだ不足しているといった反省が多く出された。 そこで、本年度も昨年度までの研究主題を継承し、さらに主体的に行動する子どもの育成をめざして、研究に取り組んでいきたいと考えた。		
研 究 目 標	とともに学び合い、たくましく生きる子どもを育成するための学習指導のあり方を、授業実践を通して明らかにしていく。		
め ざ す 子 ど も 像	とともに学び合い、たくましく生きる子どもの育成をめざして、もっと子ども達につけていかなければならないのはどんな力なのか、昨年度の研究で明らかになった課題をもとに、より具体的なめざす子ども像を下記のように考えた。 (1) 自分たちで課題を見つけ、追究する子ども ・自分の課題をしっかりと持ち、見通しを立て、主体的に課題を追究できる。 (2) 自分らしく伸び伸びと表現できる子ども ・話し合ったり、まとめたり、発表し合ったり、時と場に応じた言葉で自分の意見や考えをはっきり表現できる。 (3) いろいろな人と積極的に関わり合いながら、自己を高めていく子ども ・進んでいろいろな人と交流しながら課題を探究したり、学習を通して自己を深く見つめたりしながら、さらに自分を高めていけるような新たな課題を持てる。		

研究の仮説	(1) 「自分たちで課題を見つけ、追究する子ども」をめざし 子ども一人一人が生き生きと活動する場を工夫することにより、自分たちで課題を見つけ、追究する子どもが育つであろう。 <ポイントとなる支援の重点> ・課題を見つける力を養うため、単元の立ち上げの段階で、いろいろなものに関心や疑問を持てるようにする。 ・見通しをもって活動することができるような学習プリントや資料の提示。 ・人に尋ねたりインターネットで検索したり、さまざまな調べ方を体験させる。 ・子どもが主体的に活動できる教師の助言の方法や内容、資料の提示などの工夫。 (2) 「自分らしく伸び伸びと表現できる子ども」をめざし 自分の持ち味を發揮しながら互いに協力し、高め合って学ぶ活動を設定することにより、自分の考えや意見をはっきり相手に伝えようとする意欲的な態度が生まれ、自分らしく伸び伸びと表現できる子どもが育つであろう。 <ポイントとなる支援の重点> ・考えをはっきり言ったり意見をしっかり聞いたりできる日頃の学級経営や環境づくりに努力する。 ・活動の中に、教え合ったり話し合ったりしながら学び合う場を多く設定する。 ・聞く人がわかりやすい話し方になるよう、学年や個々の子どもの実態に応じた発表の仕方や話し合いの仕方を工夫する。 (3) 「いろいろな人と積極的に関わり合いながら自己を高めていく子ども」をめざし 課題を調べたり人に尋ねたりする機会を多く設定することにより、見聞を広め、さらに自分を高めていく新たな課題を見つけられる子どもが育つであろう。 <ポイントとなる支援の重点> ・人との交流を多く持てるようにするために、適時行き来できる西山形地区内を重点に、調べに出かけたりさまざまな人を講師として招いたりする。 ・新しい知識や考え方、学び方などを確実に身に付けさせたり、学んだことを生かしてさらに自分を高めてく新たな課題を見つけられるようにするために、単元の終末部で活動を振り返る場を設ける。														
研究の内容と方法	(1) 生活科・総合的な学習の授業づくり授業研究会 ・一人1回は研究授業を行い、仮説の検証をしていく。研究授業にはできるだけ外部講師を招き、指導助言をいただく。 ・子どもの興味・関心に基づいた課題の選択、素材の収集に努め、授業実践を通しての研究や研修を進める。 ・効果的に活動を進めたり、活動を通して学習したことを確実に定着化できるように、他教科や特別活動との関連を明らかにした授業作りを行う。 他教科・特別活動との関連がわかるような年間プランを作成する。 ・積極的に地域の素材や人材バンクを活用したりする。 地域に関係する単元を各学年で1つは取り上げる。 ・年間の指導過程をファイル化し、次年度に活用できるようにする。 (2) 生活科・総合的な学習に関連した研修 ・外部講師による研修や文献による研修を行い、共通理解しながら進めていく。														
研究の計画	<table border="0"> <tr> <td>4月 研究内容等の検討</td><td>11月 4日 授業研究会(6年)</td></tr> <tr> <td>5月 年間プラン作成の検討</td><td>11月13日 授業研究会(1年)</td></tr> <tr> <td>6月 授業研究会(5年)</td><td>11月25日 授業研究会(4年)</td></tr> <tr> <td>7月 1学期の反省</td><td>12月 1日 授業研究会(2年)</td></tr> <tr> <td>8月 2学期の計画</td><td>1月 本年度の研究のまとめ</td></tr> <tr> <td>10月30日 授業研究会(3年・とかみ)</td><td>2月 来年度の計画</td></tr> <tr> <td></td><td>3月 研究紀要完成</td></tr> </table>	4月 研究内容等の検討	11月 4日 授業研究会(6年)	5月 年間プラン作成の検討	11月13日 授業研究会(1年)	6月 授業研究会(5年)	11月25日 授業研究会(4年)	7月 1学期の反省	12月 1日 授業研究会(2年)	8月 2学期の計画	1月 本年度の研究のまとめ	10月30日 授業研究会(3年・とかみ)	2月 来年度の計画		3月 研究紀要完成
4月 研究内容等の検討	11月 4日 授業研究会(6年)														
5月 年間プラン作成の検討	11月13日 授業研究会(1年)														
6月 授業研究会(5年)	11月25日 授業研究会(4年)														
7月 1学期の反省	12月 1日 授業研究会(2年)														
8月 2学期の計画	1月 本年度の研究のまとめ														
10月30日 授業研究会(3年・とかみ)	2月 来年度の計画														
	3月 研究紀要完成														